

10 臨床実習におけるインシデント・アクシデントの実態

天池千嘉子

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 臨床実習, インシデント, アクシデント

はじめに

良質で安全な歯科医療を提供するために様々な取り組みが検討されている。歯科衛生業務は多くの場面でリスクが高いことから、歯科衛生教育についても医療安全教育が組み込まれ、基礎学習や臨床実習において指導されている。

そこで、学生の臨床実習でのインシデント・アクシデントの概要と発生傾向を把握することを目的に調査し、今後の課題について検討した。

対象および方法

対象は本学歯科衛生士学科平成27年度生37名である。方法は平成28年10月から平成29年9月までの臨床実習期間中(全7ローテーション)、各実習ローテーション(6週間)終了毎に7回、無記名式質問紙法にて調査した。質問紙の内容は学生が認識したインシデント・アクシデント、事例の内容、発生時の報告の有無についてなどである。

結果および考察

1年間の臨床実習中に学生が認識したインシデントは68件、アクシデントは19件であった。

臨床実習の時期別にみた発生率の推移を図1に示す。

インシデントは臨床実習開始直後のローテーションに60%と多くの者が経験し、実習が進むにつれ減少傾向にあったが、実習終了直前に再び上昇した。臨床実習開始直後のローテーションは、学生にとって不安や緊張が強く、知識や技術の未熟さの現れからだと考えられる。またアクシデントの発生は、実習2ローテーション目に12.1%と最も高く、インシデントと同様に実習終了直前の6,7ローテーション目に再び高くなった。3ローテーション目のアク

シデントの上昇は、実習にもある程度慣れてきた時期でもあるが、臨床実習開始後、初めての長期休暇(冬休み)開けで実習に向かう姿勢が十分ではなく、実習に対する慢心がみられたと思われる。

また5ローテーション目に減少したのは3年生に進級し再度、実習の心構えについてのオリエンテーションを行った結果、改めて緊張感が高まったからと考えられる。

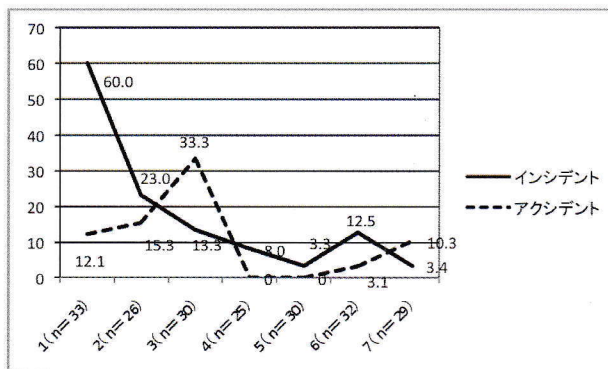


図1 実習時期別インシデント・アクシデント発生率

事例の内容はインシデントでは「診療補助」に41件と最も多く発生し、次いで「待合室・受付」の9件となった。アクシデントは「待合室・受付」「準備・片付け」の9件となった。事例発生後、実習担当者に報告をしなかったのは18件で、その理由として「報告義務がないと思った」、「自覚がなかった」が挙げられた。これらのことより学生の認識不足から表面化しない事例もあったと考えられる。

まとめ

1年間の臨床実習を行なうにあたり、今後も基礎学習で徹底した医療安全教育も必要であるが、実習期間中もオリエンテーションを実施し、事故防止に対する意識付けを行なう必要がある。